

(表 2-7-5-4) 入浴拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分		コード	解決方法	情報の組み合わせパターン													
パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16		
入浴拒否の調査	101	本人の同意を得た上での入浴	2,735	357	254	214	210	151	89	82	32	30	31	145	38	35	
	102	本人の同意を得た上での入浴	2.0	0.9	6.7	0.7	1.4	1.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.1	0.1	
	103	本人の同意を得た上での入浴	3.2	0.8	6.4	1.9	2.4	1.4	2.4	1.0	1.8	5.4	3.8	2.1	2.8	3.8	
	104	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	0.7	0.3	0.2	0.2	1.2	1.1	0.6	1.2	1.8	0.2	0.1	0.2	
	105	本人の同意を得た上での入浴	6.7	8.0	3.9	4.3	8.1	3.8	8.1	1.5	14.7	8.4	10.0	3.6	11.6	11.6	
	106	本人の同意を得た上での入浴	1.7	2.8	2.3	2.3	1.0	1.1	1.5	0.3	1.5	3.4	3.6	0.1	0.1	0.3	
	107	本人の同意を得た上での入浴	1.1	0.5	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	1.4	0.0	0.1	0.0	0.0	
	108	本人の同意を得た上での入浴	2.4	0.4	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.4	2.8	2.0	0.7	1.0	0.7	
	109	本人の同意を得た上での入浴	2.4	0.4	15.3	5.7	0.4	0.2	0.2	0.2	1.0	8.8	6.8	1.4	1.0	0.0	
	110	本人の同意を得た上での入浴	2.4	0.4	15.3	5.7	0.4	0.2	0.2	0.2	1.0	8.8	6.8	1.4	1.0	0.0	
入浴拒否の調査	201	本人の同意を得た上での入浴	3.1	3.0	1.5	3.4	6.9	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	
	202	本人の同意を得た上での入浴	2.7	1.6	0.7	1.7	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	203	本人の同意を得た上での入浴	1.2	2.6	1.1	1.9	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	204	本人の同意を得た上での入浴	4.4	5.6	0.6	0.6	1.8	2.3	3.1	3.3	5.5	7.5	6.3	4.4	8.2	8.1	
	205	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	1.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	206	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	0.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	207	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	2.9	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	208	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	2.9	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	209	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	2.9	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	210	本人の同意を得た上での入浴	1.0	0.6	2.9	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
入浴拒否の調査	301	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	302	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	303	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	304	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	305	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	306	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	307	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	308	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	309	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	310	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
入浴拒否の調査	401	本人の同意を得た上での入浴	1.6	0.9	5.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	402	本人の同意を得た上での入浴	2.2	1.1	2.4	1.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	403	本人の同意を得た上での入浴	8.0	8.1	3.5	4.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	
	404	本人の同意を得た上での入浴	3.7	10.1	4.5	0.6	0.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	
	405	本人の同意を得た上での入浴	4.5	8.1	4.4	1.6	2.8	1.1	3.5	0.2	4.8	1.7	2.8	1.1	1.1	1.1	
	406	本人の同意を得た上での入浴	0.8	0.3	0.3	0.3	1.5	1.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	407	本人の同意を得た上での入浴	1.8	0.7	1.4	1.4	0.1	1.3	7.7	1.8	1.1	1.7	0.2	0.2	0.2	0.2	
	408	本人の同意を得た上での入浴	0.2	0.0	0.1	0.1	0.9	0.1	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	409	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	410	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
入浴拒否の調査	501	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	502	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	503	本人の同意を得た上での入浴	1.5	1.6	1.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	504	本人の同意を得た上での入浴	2.2	1.7	4.6	1.7	1.2	3.2	0.2	1.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	
	505	本人の同意を得た上での入浴	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	506	本人の同意を得た上での入浴	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	507	本人の同意を得た上での入浴	1.2	0.2	0.1	0.1	0.5	2.3	1.6	0.3	0.6	0.1	0.4	0.4	0.4	0.4	
	508	本人の同意を得た上での入浴	3.7	0.6	0.2	0.2	3.0	5.0	1.8	2.6	0.1	1.8	0.5	0.5	0.5	0.5	
	509	本人の同意を得た上での入浴	4.2	0.6	0.3	0.3	3.5	6.7	3.0	3.0	0.3	1.2	0.4	0.4	0.4	0.4	
	510	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
入浴拒否の調査	601	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	602	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	603	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	604	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	605	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	606	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	607	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	608	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	609	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	610	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
入浴拒否の調査	701	本人の同意を得た上での入浴	2.3	8.3	2.4	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	702	本人の同意を得た上での入浴	1.6	4.2	2.6	0.5	0.3	0.1	1.9	0.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	703	本人の同意を得た上での入浴	2.6	5.9	2.0	0.9	0.9	0.3	3.9	5.9	2.2	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	
	704	本人の同意を得た上での入浴	1.8	5.9	1.4	0.0	0.2	1.0	0.7	1.1	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	
	705	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	706	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	707	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	708	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	709	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	710	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
入浴拒否の調査	801	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	802	本人の同意を得た上での入浴	2.1	1.5	0.6	0.3	0.3	0.1	0.8	3.2	4.3	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	
	803	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	804	本人の同意を得た上での入浴	2.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	805	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	806	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	807	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	808	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	809	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	810	本人の同意を得た上での入浴	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		

(注) 拒否クラス発生率による集計

(表 2-7-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答 数	何日も入 浴しない で放って おく	拒否され ているか らそのま まにして 関わらな い	入浴の時 間だから と介護者 側のペー スで誘う	本人の意 志や気分 を考えず 無理矢理 入浴させ る	間をあけ ずに、何 度もしつ く誘う	いきなり お湯をか ける	だまして 浴室に連 れて行く	感情的に 対応する	自尊心を 傷つける 言葉(汚 い、臭い など)で 説得しよ うとする	わざと服 を濡ら す、汚す 等して入 浴させる	その他
実数	318	281	281	244	292	259	291	156	283	280	228	27
パーセント	100.0	88.4	88.4	76.7	91.8	81.4	91.5	49.1	89.0	88.1	71.7	8.5

7. 排泄介護拒否への成功事例調査

1) 回答者属性

本調査の回答 318 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

(1) 年齢

有効回答 307 件における回答者の平均年齢は、42.8 歳 (SD13.1 歳) で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 94 歳であった。(表 2-8-1-1 参照)

(2) 性別割合

有効回答 310 件中、回答者の性別割合は男性が 51 件 (16.5%)、女性が 259 件 (83.5%) と女性の割合が多かった。(表 2-8-1-2 参照)

(3) 職名の割合

有効回答 302 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 138 件 (45.7%)、ケアマネージャーが 91 件 (30.1%)、看護師が 24 件 (7.9%)、相談員が 5 件 (1.7%) となっている。(表 2-8-1-3 参照)

(4) 役職の割合

有効回答 302 件中、回答者の役職の割合は管理者が 104 件 (34.4%)、主任・リーダーが 78 件 (25.8%)、施設長が 8 件 (2.6%)、事務長が 1 件 (0.3%) で、114 件 (37.7%) が役職なしであった。(表 2-8-1-4 参照)

(5) 資格の所有割合

有効回答 305 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 191 件 (62.6%)、ケアマネージャーが 123 件 (40.3%)、ヘルパーが 116 件 (38.0%)、看護師 (准看護師) が 34 件 (11.1%)、社会福祉士が 6 件 (2.0%) であった。(表 2-8-1-5 参照)

(6) 所属事業種の割合

有効回答 308 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 293 件 (95.1%)、介護老人福祉施設が 3 件 (1.0%)、介護老人福祉施設 (ユニット型) と小規模多機能型通所介護事業が各 2 件 (0.6%) であった。(表 2-8-1-6 参照)

(7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 313 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.6 年 (SD3.5 年) で最少が 0.1 年、最高が 23.0 年であった。(表 2-8-1-7 参照)

(8) 総介護経験年数

有効回答 308 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.0 年 (SD5.7 年) で最少が 0.5 年、最高が 44.9 年であった。(表 2-8-1-8 参照)

2) 排泄介護拒否の解決経験

本調査に回答を得た 318 件における排泄介護拒否の解決経験、解決した高齢者に

関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

(1) 解決経験の有無

有効回答 313 件中、排泄介護拒否で解決経験があるのは 300 件 (95.8%) であった。(表 2-8-2-1 参照)

(2) 高齢者の状態

① 年齢

解決経験がある 300 件のうち有効回答 279 件における高齢者の平均年齢は、84.2 歳 (SD6.3 歳) で最少年齢が 56 歳、最高年齢が 101 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 89 件 (31.9%) で最も多い。(表 2-8-2-2 参照)

② 性別

性別割合は、有効回答 295 件中、男性が 55 件 (18.6%)、女性が 240 件 (81.4%) と女性が多い。(表 2-8-2-3 参照)

③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 270 件中、アルツハイマー型が 146 件 (54.1%)、脳血管疾患型が 69 件 (25.6%)、前頭側頭型が 1 件 (0.4%)、混合が 23 件 (8.5%) であった。(表 2-8-2-4 参照)

④ 身体機能の障害とADL

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 300 件中、下肢が 88 件 (29.3%)、上肢が 2 件 (0.7%)、体幹が 5 件 (1.7%) であり、残りの 205 件 (68.3%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 2-8-2-5 参照)

【食事介助】

食事介助は、有効回答 281 件中、自立が 189 件 (67.3%)、一部介助が 80 件 (28.5%)、全介助が 12 件 (4.3%) であった。(表 2-8-2-6 参照)

【移動】

移動は、有効回答 236 件中、短距離歩行自立が 142 件 (60.2%)、長距離歩行自立が 63 件 (26.7%)、杖自立が 29 件 (12.3%) であった。(表 2-8-2-7 参照)

【排泄】

排泄は、有効回答 257 件中、身体介助必要が 160 件 (62.3%)、身体介助必要なしが 97 件 (37.7%) であった。(表 2-8-2-8 参照)

【入浴】

入浴は、有効回答 288 件中、全介助が 86 件 (29.9%)、洗身洗髪介助が 103 件 (35.8%)、移動介助が 31 件 (10.8%)、その他一部介助が 58 件 (20.1%) で、自立が 10 件 (3.5%) であった。(表 2-8-2-9 参照)

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 296 件中、ランクⅠが 12 件 (4.1%)、ランクⅡが 44 件 (14.9%)、ランクⅢが 109 件 (36.8%)、ランクⅣが 113 件 (38.2%)、ランクⅤが 18 件 (6.1%) であった。(表 2-8-2-10 参照)

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 288 件中、J ランクが 26 件 (9.0%)、A ランクが 196 件 (68.1%)、B ランクが 58 件 (20.1%)、C ランクが 8 件 (2.8%) であった。(表 2-8-2-11 参照)

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注1)を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要 (98.5%) がほとんどで、身体障害の重症度で A ランク (56.8%) と B ランク (35.7%) が多く、認知症の重症度でランクⅢ (43.6%) とランクⅣ (47.0%) が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 216 件のうち 117 件 (54.2%) が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし (79.3%) が多く、身体障害の重症度で J ランク (16.4%) と A ランク (80.4%) が多く、認知症の重症度でランクⅡ (29.0%) とランクⅢ (36.3%) が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 99 件 (45.8%) が該当する。

(表 2-8-2-12 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-8-2-13 参照)

(注1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として AIC や BIC などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である(注2参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3) 解決前と解決後の変化

排泄介護拒否で解決経験がある 300 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

(1) 解決前の状況

排泄介護拒否が解決される前の状況としては、有効回答 298 件中、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」が 150 件 (50.3%)、「パッドを交換しようとする」と抵抗した」が 143 件 (48.0%)、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」が 113 件 (37.9%)、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」が 81 件 (27.2%)、「オムツ交換をしようとする」と、つねる、叩くなど暴力行為があった」が 68 件 (22.8%) であった。(表 2-8-3-1 参照)

(2) 解決後の状況

排泄介護拒否が解決された後の状況としては、有効回答 298 件中、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」が 132 件 (44.3%)、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」が 87 件 (29.2%)、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」が 84 件 (28.2%)、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」が 67 件 (22.5%)、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」が 66 件 (22.1%) であった。(表 2-8-3-2 参照)

(3) 解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「パッドを交換しようとする」と抵抗した」(86.7%)、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(84.0%)、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」(79.5%)、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」(51.9%)、「オムツ交換をしようとする」と、つねる、叩くなど暴力行為があった」(42.9%) と多様である。これに該当する事例が 58 件 (29.4%) であり、“頑固に抵抗拒否”パターンと表示する。

第 2 は、「パッドを交換しようとする」と抵抗した」(99.7%)に加えて、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」(15.6%)、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(15.2%)、「オムツ交換をしようとする」と、つねる、叩くなど暴力行為があった」(13.4%)などを多少伴っている。これに該当する事例が 43 件 (21.8%)

であり、“パッドを交換しようとする”と抵抗した”パターンと表示する。

第3は、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(99.8%)にほぼ集中している。これに該当する事例が39件(19.8%)であり、“尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった”パターンと表示する。

第4は、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」(99.5%)に加えて、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(15.6%)を多少伴っている。これに該当する事例が23件(11.7%)であり、“トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された”パターンと表示する。

第5は、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」(99.1%)に加えて、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(25.1%)を多少伴っている。これに該当する事例が19件(9.6%)であり、“失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった”パターンと表示する。

第6は、「オムツ交換をしようとする」と、つねる、叩くなど暴力行為があった」(99.1%)にほぼ集中している。これに該当する事例が15件(7.6%)であり、“オムツ交換をしようとする”と、つねる、叩くなど暴力行為があった”パターンと表示する。(表2-8-3-3参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-8-3-4参照)

② 解決後のパターン

解決後は5パターンであり、第1は、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(99.8%)にほぼ集中している。これに該当する事例が54件(27.4%)であり、“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”パターンと表示する。

第2は、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」(98.8%)に加えて、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(40.3%)、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(32.6%)、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」(26.3%)、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(14.3%)などを伴っている。これに該当する事例が43件(21.8%)であり、“交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった”パターンと表示する。

第3は、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(99.4%)に加えて、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(19.8%)や「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(13.6%)などを多少伴っている。これに該当する事例が35件(17.8%)であり、“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるよ

うになった”パターンと表示する。

第4は、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」(98.9%)に加えて、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(34.3%)と「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(31.1%)を伴っている。これに該当する事例が32件(16.2%)であり、“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”パターンと表示する。

第5は、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(99.2%)に加えて、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」(24.7%)を多少伴っている。これに該当する事例が32件(16.2%)であり、“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”パターンと表示する。(表2-8-3-5参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、5クラスと6クラスモデルの情報量規準のAICが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される5クラスモデルを採用した。(表2-8-3-6参照)

③ 解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では3つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン1(頑固に抵抗拒否)から、解決後パターン4(対応する職員によっては居室内では応じるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン4(トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された)から、解決後パターン3(パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

3つめは、解決前パターン3(尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった)から、解決後パターン1(多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。(表2-8-3-7参照)

次に高齢者パターン1(介助、中高程度重症度)に限定してみると、上記の全体的傾向はみられず、次の2つの傾向が認められる。1つめは解決前パターン1(頑固に抵抗拒否)から、解決後パターン2(交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン2(パッドを交換しようとする抵抗した)から、

解決後パターン1（多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。（表 2-8-3-8 参照）

高齢者パターン2（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、上記の全体的傾向でみられた3つの変化傾向がみられ、いずれも有意水準 1%で相関が認められる。（表 2-8-3-9 参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによって異なった変化傾向を示している。

（4）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注2）。

解決前の状況は、高齢者パターン2（自立、軽中程度重症度）では「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」が 60.7%で際立って多く、高齢者パターン1のそれ（45.4%）を上回っている。また高齢者パターン2では「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」が 15.3%で、高齢者パターン1のそれ（29.6%）を下回っている。（表 2-8-3-10 参照）

解決後の状況についてはそれほど顕著な差はみられない。（表 2-8-3-11 参照）

（注2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して 0.97、クラス2に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4）排泄介護拒否の解決方法

排泄介護拒否で解決経験がある 300 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

排泄介護拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 40 分類した。分類結果は、声かけの工夫に関するものが 18 分類、介助方法の工夫に関するものが 12 分類、介護者の工夫に関するものが 4 分類、環境調整に関するものが 3 分類、その他が 3 分類であった。

有効回答 298 件のなかで多くあがったものは、「排泄パターンに応じ」が 183 件

(61.4%)、「信頼関係のある職員が」が182件(61.1%)、「好きな話題で声かけ」が164件(55.0%)、「着替えの流れ」が118件(39.6%)、「トイレ時の下着交換」が97件(32.6%)、「本人だけに声かけ」が90件(30.2%)、「トイレの言葉禁止」が88件(29.5%)、「交換後の処理をすばやく」が73件(24.5%)、「安心できる場所で」が69件(23.2%)、「トイレに誘う」が68件(22.8%)、「事前に確認」が53件(17.8%)、「菓の塗布」が39件(13.1%)、「ケア方法の統一」が30件(10.1%)などであり、1事例あたり平均4.5項目であった。(表2-8-4-1参照)

(2) 解決方法の組み合わせパターン

40分類のなかから1事例平均4.5の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した(注3)。

その結果18の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均5.8項目の組み合わせであり、「本人だけに声かけ」(99.8%)、「排泄パターンに応じ」(77.9%)、「信頼関係のある職員が」(80.7%)の3項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」(62.6%)、「交換後の処理をすばやく」(57.4%)、「安心できる場所で」(50.4%)の3項目も多く、「トイレ時の下着交換」(33.9%)、「好きな話題で声かけ」(34.1%)、「トイレの言葉禁止」(32.9%)などで構成されている。第1パターンの該当事例は34件(11.4%)である。

第2パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「トイレに誘う」(99.8%)を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(67.1%)、「好きな話題で声かけ」(56.1%)、「トイレ時の下着交換」(37.5%)、「事前に確認」(31.7%)などで構成されている。第2パターンに該当する事例は30件(10.1%)である。

第3パターンは平均3.1項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(86.5%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(58.0%)、「事前に確認」(41.8%)、「信頼関係のある職員が」(49.4%)、「トイレに誘う」(26.9%)などで構成されている。第3パターンに該当する事例は30件(10.1%)である。

第4パターンは平均4.7項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.9%)、「好きな話題で声かけ」(99.8%)、「着替えの流れ」(82.4%)の3項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」(63.2%)、「本人だけに声かけ」(45.0%)などで構成されている。第4パターンに該当する事例は29件(9.7%)である。

第5パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「トイレの言葉禁止」(99.6%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(62.6%)と「排泄パターンに応じ」(54.3%)も多く、「好きな話題で声かけ」(31.5%)などで構成されている。第5パターンに該当する事例は22件(7.4%)である。

第6パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.9%)、「トイレ時の下着交換」(99.7%)、「信頼関係のある職員が」(80.3%)の3項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(53.3%)、「安心できる場

所で」(21.6%)などで構成されている。第6パターンに該当する事例は21件(7.0%)である。

第7パターンは平均7.8項目と多様な組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(94.2%)と「交換後の処理をすばやく」(92.7%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(76.0%)、「本人だけに声かけ」(73.0%)、「排泄パターンに応じ」(70.6%)、「事前に確認」(69.4%)、「信頼関係のある職員が」(68.3%)、「安心できる場所で」(52.3%)なども多く、「トイレに誘う」(41.7%)、「薬の塗布」(40.1%)、「トイレ時の下着交換」(41.8%)などで構成されている。第7パターンに該当する事例は20件(6.7%)である。

第8パターンは平均4.6項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.6%)、「交換後の処理をすばやく」(99.2%)、「好きな話題で声かけ」(90.8%)の3項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(68.1%)、「本人だけに声かけ」(25.5%)などで構成されている。第8パターンに該当する事例は14件(4.7%)である。

第9パターンは平均4.4項目の組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(99.7%)、「トイレの言葉禁止」(99.4%)、「トイレ時の下着交換」(81.5%)の3項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(63.0%)、「排泄パターンに応じ」(48.9%)などで構成されている。第9パターンに該当する事例は13件(4.4%)である。

第10パターンは平均4.5項目の組み合わせであり、「本人だけに声かけ」(80.7%)を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(74.9%)、「ケア方法の統一」(61.0%)、「トイレ時の下着交換」(60.5%)、「トイレの言葉禁止」(38.3%)、「交換後の処理をすばやく」(29.1%)などで構成される。第10パターンに該当する事例は13件(4.4%)である。

第11パターンは平均4.7項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.8%)と「薬の塗布」(99.4%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(58.3%)、「トイレ時の下着交換」(48.7%)、「排泄パターンに応じ」(41.8%)、「トイレの言葉禁止」(33.7%)、「安心できる場所で」(25.2%)などで構成される。第11パターンに該当する事例は12件(4.0%)である。

第12パターンは平均2.6項目と最少の組み合わせであり、「トイレ時の下着交換」(55.4%)と「薬の塗布」(52.9%)を主として、「本人だけに声かけ」(34.5%)、「安心できる場所で」(18.4%)、「家族からの誘導」(17.3%)などで構成されている。第12パターンに該当する事例は12件(4.0%)である。

第13パターンは平均4.6項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.8%)、「事前に確認」(99.5%)、「好きな話題で声かけ」(99.3%)、「排泄パターンに応じ」(78.5%)の4項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」(34.9%)などで構成されている。第13パターンに該当する事例は11件(3.7%)

である。

第 14 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.8%)、「トイレの言葉禁止」(80.0%)、「トイレ時の下着交換」(99.3%) の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」(71.0%)、「好きな話題で声かけ」(35.9%)、「交換後の処理をすばやく」(26.6%)、「ケア方法の統一」(26.5%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 11 件 (3.7%) である。

第 15 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(99.7%) を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(71.1%)、「衛生・疾病に関する説明」(67.8%)、「薬の塗布」(59.7%) の 3 項目も多く、「安心できる場所で」(30.6%)、「交換後の処理をすばやく」(27.9%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 10 件 (3.4%) である。

第 16 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(62.2%) と「トイレの言葉禁止」(50.9%) を主として、「好きな話題で会話しながら」(34.2%)、「ケア方法の統一」(25.0%) などで構成されている。第 16 パターンに該当する事例は 9 件 (3.0%) である。

第 17 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「トイレに誘う」(98.9%) を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(74.0%) と「排泄パターンに応じ」(51.2%) も多く、「安心できる場所で」(45.8%)、「着替えの流れ」(27.7%)、「事前に確認」(26.7%) などで構成されている。第 17 パターンに該当する事例は 4 件 (1.3%) である。

第 18 パターンは平均 7.9 項目と最多の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.0%)、「排泄パターンに応じ」(99.0%)、「トイレ時の下着交換」(98.2%)、「交換後の処理をすばやく」(98.0%)、「好きな話題で会話しながら」(95.9%) の 5 項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(50.9%)、「トイレに誘う」(50.0%)、「本人だけに声かけ」(48.8%)、「笑顔でやさしく」(48.0%)、「安心できる場所で」(48.6%)、「すばやく」(47.9%) などで構成されている。第 18 パターンに該当する事例は 2 件 (0.7%) である。(表 2-8-4-2 参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-8-4-3 参照)

(注 3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は(注 1)に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”(分類精度情報)の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

(3) 解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、18 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 18 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1% で認められる。解決方法パターン 14 は、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均 5.1 項目の組み合わせであり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1% で認められる。解決方法パターン 10 は、「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均 4.5 項目の組み合わせであり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5% で認められる。解決方法パターン 1 は、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均 5.8 項目の組み合わせであり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によって居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表 2-8-4-4 参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 14 では、解決後に“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”が 73.9% と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”が 48.7% と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 38.1% と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。(表 2-8-4-5 参照)

(4) 高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1 (介助、中高程度重症度) に限定した相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる (注 4)。

1 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1% で認められる。解決方法パターン 11 は、“「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均 4.7 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 17 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1% で認められる。解決方法パターン 17 は、“「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均 5.1 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

— 3 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1% で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

4 つめは、解決方法パターン 3 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5% で認められる。解決方法パターン 3 は、“「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均 3.1 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表 2-8-4-6 参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 11 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 79.2% と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 17 では、解決後に“交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった”が 93.6% と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”が 49.2% と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 3 では、解決後に“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”が 71.7% と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。(表 2-8-4-7 参照)

また高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 13 は、“「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の 4 項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均 4.6 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

4 つめは、解決方法パターン 16 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 16 は、“「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 9 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 9 は、“「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の 3 項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均 4.4 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“交換に応じるようになり、お礼のことは言うてくれるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表 2-8-4-8 参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 14 では、解決後に“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”が 79.6%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 99.8%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 48.6%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 16 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じ

るようになった”が65.3%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン9では、解決後に“交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった”が62.7%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。(表2-8-4-9参照)

(注4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義(＝クラスター化)した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5) 排泄介護拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ1,256件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

(1) 役立った情報の概況

有効回答1,256件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が584件(46.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が513件(40.8%)、「スタッフとの関係」が347件(27.6%)、「気分」が335件(26.7%)、「性格」が230件(18.3%)、「交換場所」が174件(13.9%)、「抵抗時の様子」が160件(12.7%)、「認知機能」が150件(11.9%)、「抵抗時の表情」が139件(11.1%)などであり、ひとつの解決方法当たり平均3.3項目あげられた。(表2-8-5-1参照)

(2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果17の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(63.9%)と「スタッフとの関係」(54.6%)を主として、「性格」(26.7%)他に分散して構成されている。第1パターンの該当方法は延べ256件(20.4%)である。

第2パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「気分」(99.7%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(68.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(58.0%)、「スタッフとの関係」(36.2%)、「性格」(28.5%)などで構成され

ている。第2パターンの該当方法は延べ145件(11.5%)である。

第3パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「興味・関心」(70.0%)と「本人の気持ち、意志」(59.7%)を主として、「気分」(44.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(30.2%)、「性格」(28.1%)などで構成されている。第3パターンの該当方法は延べ105件(8.4%)である。

第4パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「抵抗時の様子」(99.0%)を共通ベースとして、「抵抗時の表情」(53.1%)、「本人の気持ち、意志」(53.2%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.2%)、「気分」(28.8%)、「スタッフとの関係」(27.4%)などで構成されている。第4パターンの該当方法は延べ94件(7.5%)である。

第5パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(91.0%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(78.2%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(56.4%)などで構成されている。第5パターンの該当方法は延べ86件(6.8%)である。

第6パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(54.8%)と「本人の気持ち、意志」(50.1%)を主として、「排泄・排尿時間」(40.4%)、「尿意・排泄感覚」(30.0%)、「排泄頻度」(27.6%)、「排泄に関する生活習慣」(26.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(26.1%)などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ83件(6.6%)である。

第7パターンは平均2.2項目と最少の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%)を共通ベースとして、「性格」(23.5%)、「認知機能」(20.3%)などで構成されている。第7パターンの該当方法は延べ70件(5.6%)である。

第8パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「交換場所」(99.5%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(41.9%)、「気分」(31.8%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.9%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ67件(5.3%)である。

第9パターンは平均3.2項目の組み合わせであり、「皮膚疾患」(44.1%)、「失禁有無」(31.2%)、「排泄状況」(25.8%)、「パッドの必要性」(29.6%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ67件(5.3%)である。

第10パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「気分」(70.7%)を主として、「本人の気持ち、意志」(44.6%)、「排泄・排尿時間」(37.6%)、「排泄状況」(32.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(26.3%)、「水分状態」(25.6%)、などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ55件(4.4%)である。

第11パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(81.2%)を共通ベースとして、「排泄間隔」(52.5%)、「交換場所」(49.7%)、「気分」(43.3%)、「抵抗時の表情」(28.4%)、「抵抗時の様子」(25.1%)、「交換の時間帯」(25.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(25.3%)などで構成され

ている。第 11 パターンの該当方法は延べ 55 件 (4.4%) である。

第 12 パターンは平均 3.1 項目の組み合わせであり、「認知機能」(43.0%)、「認知症の種類」(22.3%)、「見当識」(21.1%)、「尿意・排泄感覚」(28.9%)、「施設環境」(26.6%) などで構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 40 件 (3.2%) である。

第 13 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」(54.7%) を主として、「失禁有無」(45.3%)、「抵抗時の様子」(29.0%)、「抵抗時の表情」(28.2%)、「排泄場所」(28.8%)、「排泄・排尿時間」(27.0%) などで構成されている。第 13 パターンの該当方法は延べ 37 件 (2.9%) である。

第 14 パターンは平均 4.1 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(89.1%) を共通ベースとして、「認知機能」(72.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(45.9%)、「失禁有無」(33.1%)、「歩行・下肢機能」(29.1%)、「抵抗時の表情」(26.1%) などで構成されている。第 14 パターンの該当方法は延べ 32 件 (2.5%) である。

第 15 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「交換場所」(64.0%)、「交換の時間帯」(52.8%)、「尿意・排泄感覚」(51.0%) の 3 項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(47.0%) などで構成されている。第 15 パターンの該当方法は延べ 31 件 (2.5%) である。

第 16 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(99.6%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(64.7%)、「気分」(44.3%)、「抵抗時の様子」(27.0%) などで構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 23 件 (1.8%) である。

第 17 パターンは平均 4.8 項目と最多の組み合わせであり、「介護者の性別」(98.6%) を共通ベースとして、「気分」(76.4%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(68.4%)、「便の状態」(58.6%)、「性格」(50.9%)、「認知症の種類」(39.3%)、「スタッフとの関係」(34.6%) などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 10 件 (0.8%) である。(表 2-8-5-2 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-8-5-3 参照)

(3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 10 パターン(「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」、「排泄・排尿時間」、「排泄状況」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「水分状態」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ)は、「排泄パターンに応じ」が 46.9%と多い。

第 6 パターン(「排泄間隔」と「本人の気持ち、意志」を主として、「排泄・排尿時間」、「尿意・排泄感覚」、「排泄頻度」、「排泄に関する生活習慣」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ)は、「排泄パターンに応じ」が 38.9%、「トイレに誘う」が 16.8%と多い。

第13パターン（「尿意・排泄感覚」を主として、「失禁有無」、「抵抗時の様子」、「抵抗時の表情」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が35.9%と多い。

第1パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「性格」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ）は、「信頼関係のある職員が」が35.2%、「好きな話題で声かけ」が18.8%と多い。

第3パターン（「興味・関心」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「好きな話題で声かけ」が26.3%と多い。

第9パターン（「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」、「パッドの必要性」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ）は、「薬の塗布」が24.7%と多い。

第8パターン（「交換場所」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「安心できる場所で」が22.6%、「着替えの流れ」が22.5%、「トイレ時の下着交換」が15.7%と多い。

第16パターン（「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「抵抗時の様子」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ）は、「着替えの流れ」が21.9%と多い。

第11パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「交換場所」、「気分」、「抵抗時の表情」、「抵抗時の様子」、「交換の時間帯」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が21.7%と多い。

第14パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「認知機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁有無」、「歩行・下肢機能」、「抵抗時の表情」などで構成された平均4.1項目の組み合わせ）は、「トイレ時の下着交換」が21.4%、「排泄パターンに応じ」が20.1%と多い。

第15パターン（「交換場所」、「交換の時間帯」、「尿意・排泄感覚」の3項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ）は、「トイレ時の下着交換」が21.4%、「着替えの流れ」が17.2%と多い。（表2-8-5-4参照）

6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答286件中、「声かけせず無言で行う」が247件（86.4%）、「放っておく」が242件（84.6%）、「無理やり交換する」が237件（82.9%）、「臭い、汚いからなどの声かけ」が230件（80.4%）、「無理にトイレに連れて行く」が226件（79.0%）、「何度もしつこく声をかける」が215件（75.2%）となっている。（表2-8-6-1参照）

(表 2-8-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	307	16	32	52	34	34	41	35	38	25
パーセント	100.0	5.2	10.4	16.9	11.1	11.1	13.4	11.4	12.4	8.1

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
307	42.8	13.1	19	94

(表 2-8-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	310	51	259
パーセント	100.0	16.5	83.5

(表 2-8-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	302	138	5	91	24	72
パーセント	100.0	45.7	1.7	30.1	7.9	23.8

(表 2-8-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	302	8	104	78	1	0	114
パーセント	100.0	2.6	34.4	25.8	0.3	0.0	37.7

(表 2-8-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	305	34	191	6	123	116	28
パーセント	100.0	11.1	62.6	2.0	40.3	38.0	9.2

(表 2-8-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	308	3	2	293	2	12
パーセント	100.0	1.0	0.6	95.1	0.6	3.9

(表 2-8-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
313	4.6	3.5	0.1	23.0